

易前焱 YI Qianyi

2021年6月15日 インタビュアー：乙戸将司、編集：栗原李佳・櫻井莉菜

やはりお酒が、一番大切な理由です。秋田県の日本酒は、凄く有名だと中国にいたとき、聞いたことがあります。ですから秋田は、文化的な歴史や魅力がある県だと思います。お米の国は、お酒の国という話があります。このお酒文化は歴史があるし、地元の人もお酒文化が大好きです。だから秋田県は、私の研究に合っていると考えます。

学部ではどのようなことをしていましたか。

学部的时候は、専攻は広告学です。マーケティングやパッケージデザインや、ポスターなどの視覚伝達を学んでいました。

秋美の大学院に来て、制作や研究に対する考え方など、どのように変化しましたか。

秋美の大学院は、複合芸術研究科です。複合という多角的な視点で、多領域の研究にすることが出来ます。このことは私の研究にとって大切なものと考えます。お酒文化についての研究は、広告学やデザインだけでなく、民俗学

や人類学なども含む幅の広いテーマです。つまり複合的な視野を持てば、現代において伝統的なお酒文化を広めることや、お酒と人間の関係という深い問題が、理解できるかもしれません。

今後の活動・展望について教えてくださいませんか。

私の現在のテーマは若者を対象とした日中の伝統的なお酒文化に基づく異文化コミュニケーションです。ですから今後は、秋田県で様々なアートプロジェクトと文化イベントを試みたいのです。

最後にオープンキャンパスを見ている人や進学を考えている人へなにか一言ありますか。

私は中国の留学生です。この先生と皆さんは、中国人に対して優しいです。そして、秋田の風景がきれいです。是非、来て見てください。



(写真上)『中国の茅台酒の作り方』

(写真上)『中国伝統的な酒器の歴史変化図』



(写真上・右上)『器の目』(中国の酒器)

名前、出身地、出身学部について教えてくださいてもよろしいですか。

私は、易前焱と申します。中国の重慶からの留学生です。大学時代に、広告学を勉強し、重慶理工大学を卒業しました。

現在の活動や研究テーマについて、お話をいただいてもよろしいですか。

今、日本酒文化に対して、学生や地元の人などを対象として、「もし日本酒に色があったら？」というワークショップを行っています。日本酒は、無色透明のお酒です。そしてワークショップを通して、参加者には日本酒に対してのイメージや日本酒文化に対して理解していることを、クレヨンや水彩絵の具で自由に描いてもらいます。ワークショップでのコミュニケーションを通して、人々のいろいろな視点を収集することが面白いのです。もちろんこのようなワークショップは、私の研究にも深い意義があります。

秋田に来た経緯や秋美の大学院に進学した理由を教えてください。



易前焱 YI Qianyi

プロフィール

1995年 中国重慶市生まれ。
2018年 重慶理工大学管理学部広告学専攻を卒業。
現在は、秋田公立美術大学複合芸術研究科に在学中。(修士課程1年生)